

<参考資料>

福島第一原子力発電所 敷地境界連続ダストモニタ
警報発生について(モニタリングポスト2近傍)

2016年6月1日

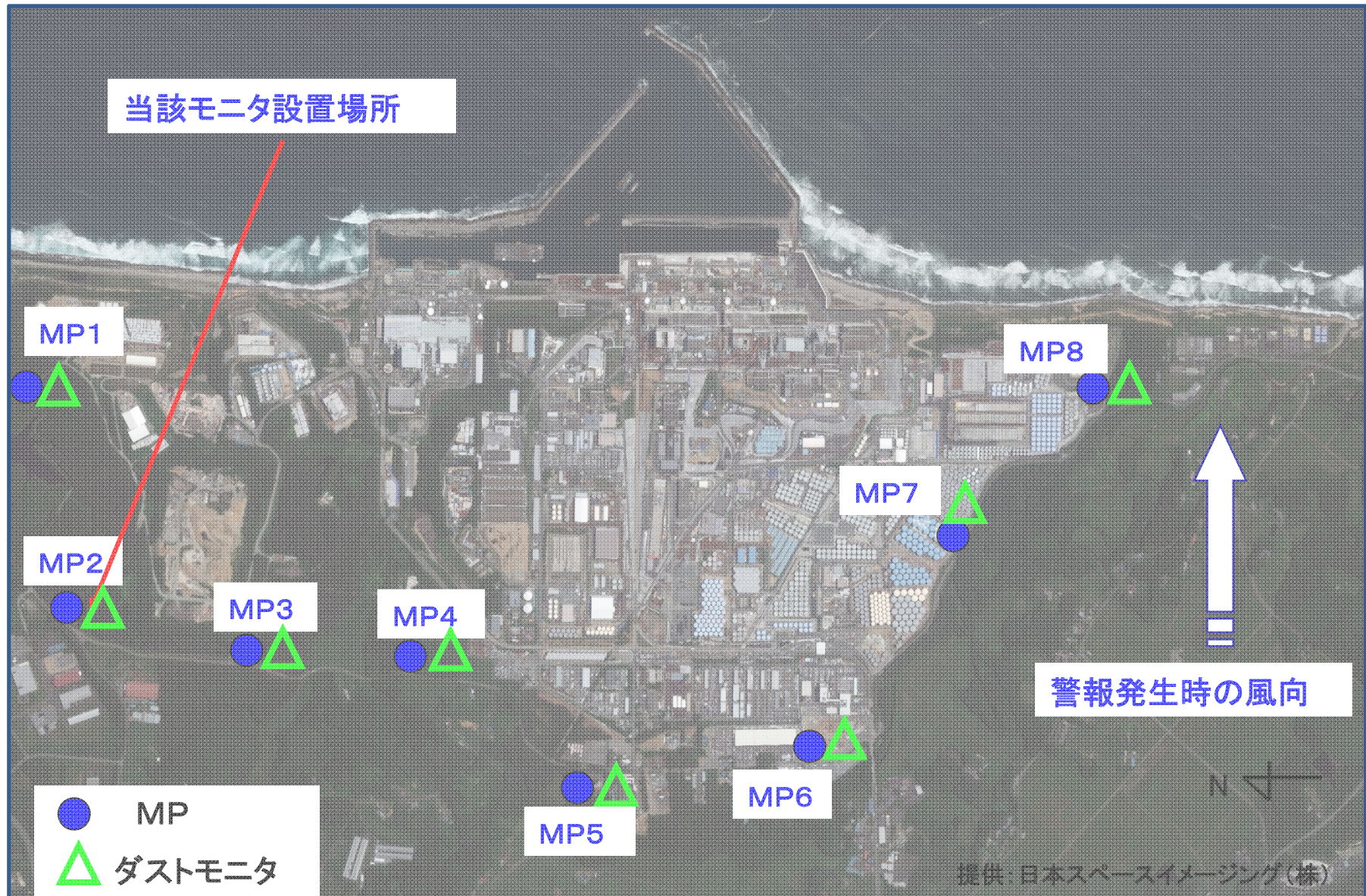
東京電力ホールディングス株式会社

TEPCO

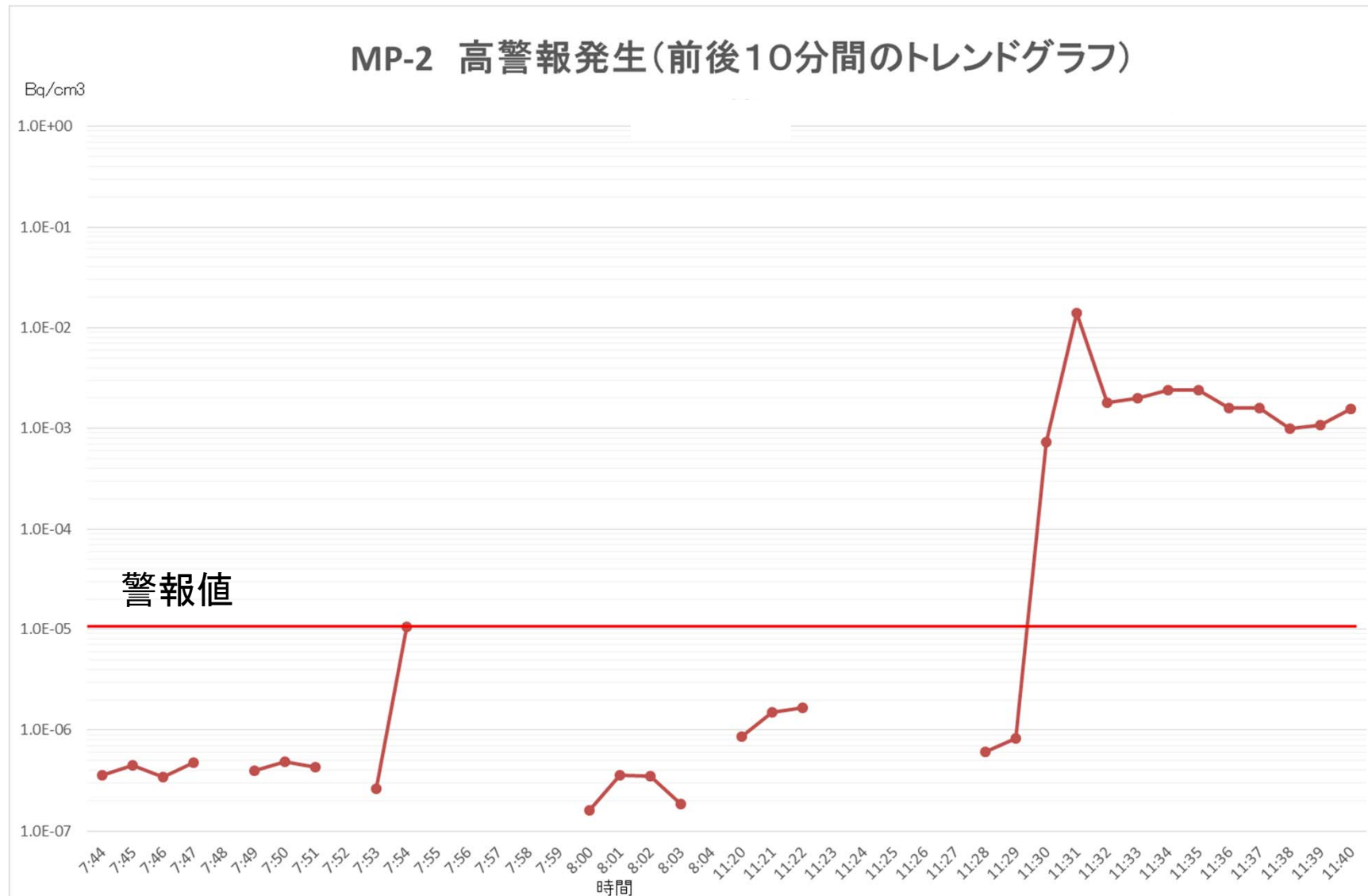
<2016年6月1日 >

- 7:54 免震重要棟集中監視室 MP(モニタリングポスト)ダストモニタ監視盤にて、ダスト放射能濃度の上昇を示す「高警報」が発生。指示値： 1.06×10^{-5} Bq/cm³
- 8:40 当該ダストモニタの現場確認し(警報クリア)、ろ紙回収開始。
- 8:52 ろ紙回収完了、当該ダストモニタ再起動。再起動後のダスト放射能濃度は通常の範囲内で推移。
- 11:30 免震重要棟集中監視室 MPダストモニタ監視盤にて、ダスト放射能濃度の上昇を示す「高警報」が発生。指示値： 1.41×10^{-2} Bq/cm³
- 11:31頃 一度警報がクリアしたが再度発生。
- 12:16～12:36 MP2周辺のダストサンプリングを実施。
- 13:10～13:30 当該ダストモニタの現場確認し(警報クリア) 当該ダストモニタについて予備品との交換を実施(再起動後のダスト放射能濃度は通常の範囲内で推移)。

敷地境界ダストモニタ設置場所



指示値変動状況グラフ(ダスト放射能濃度)



<プロット無しは、検出限界値未満>



<調査結果>

- ダスト濃度上昇時の各プラントパラメータに異常値が見られないこと。
- 他の敷地境界ダストモニタ、MP、構内ダストモニタ等に異常は見られないこと。
- ダストを舞い上げる作業もなかったこと。
- ろ紙の核種分析の結果、天然核種は確認されたが、警報に達するような濃度ではないこと。

(核種分析結果)

- ・1回目の警報時のろ紙 → 2.5×10^{-8} Bq/cm³ (ビスマス:Bi214)
- ・MP2近傍でのダスト採取結果 → 7.7×10^{-7} Bq/cm³ (Bi214)
採取時間: 12:16~12:36
- ・2回目の警報時のろ紙 → 全て検出限界値未満 (Bi214のND値: 3.2×10^{-8} Bq/cm³)

これらの状況から、ダストモニタの機器異常と判断した。

なお、当該ダストモニタについては、予備のモニタと交換し、交換後は通常の変動の範囲内で推移している。

また、機器異常と判断されたダストモニタについては、点検を実施する予定。